

教育研究業績書

2023年10月23日

所属：薬学科

資格：准教授

氏名：北山 友也

| | |
|-----------|----------------------------|
| 研究分野 | 研究内容のキーワード |
| 薬学教育、神経化学 | 教育、神経障害性疼痛 |
| 学位 | 最終学歴 |
| 博士（薬学） | 金沢大学大学院自然科学研究科博士後期課程生命科学専攻 |

| 教育上の能力に関する事項 | | |
|-------------------------------|---------------------|---|
| 事項 | 年月日 | 概要 |
| 1 教育方法の実践例 | | |
| 1. 対面授業への反転授業の実施 | 2021年9月1日から現在 | 対面授業への移行に伴い、遠隔授業で得たノウハウを用いて反転授業を導入し、実施している。 |
| 2. 薬剤師国家試験結果に基づく教育法の導入 | 2021年4月1日から現在 | 本学学生の国家試験結果（自己採点）を基に、当該学生の国家試験成績と在学時のすべての科目との成績を紐づけて解析した。解析結果を基に、各学年での開講科目成績と国家試験成績の関係をグラフ化し、新入生教育に導入した。 |
| 3. 遠隔授業に対応した授業 | 2020年5月1日2021年3月31日 | 遠隔授業の実施に対応するため、主担当教員を協力し演習を中心とした教育方法を実施。主担当がオンデマンドでの講義を担当し、その進捗状況に従い演習講義を実施し、反転授業の要素を取り入れた。 |
| 4. 遠隔授業に関するアンケートの実施およびフィードバック | 2020年4月1日2021年3月31日 | 薬学科1年生から4年生を対象に遠隔授業に関するアンケートをgoogleフォームを用いて実施した。その内容について、前期および後期に分けて学部教授会にて教員へフィードバックした。 |
| 5. FD講習を担当 | 2019年7月31日 | 学部内のFDにて、留年生対策に関する講習をおこなった。 |
| 6. 自己学習時間計画作成と報告 | 2015年4月1日から現在 | 担当クラス学生全員に対して、次週1週間の自己学習時間の計画を立てさせ、実際の時間・感想・改善点を記入させて提出させている。提出された自己学習時間計画・報告書について、アドバイスを記入後、各学生へ返却している。この提出・返却を毎週実施し、自己学習の定着を目指すと共に、実情を教員が把握することにより、他の学生へのより効率的な指導をおこなうための資料として活用している。 |
| 7. 薬の働きを調べる | 2014年9月19日現在 | 薬理学1の教員と協力して薬理学実習をおこなっている。実習終了後に面接試験（口頭試問）で行うことにより、筆記試験では把握できない学生の理解度、ものの見方、考え方等の実習目標の達成度をより詳細に把握することが可能となり、その場で訂正することにより学生に即時フィードバックすることができ成果をあげている。 |
| 8. 生体の機能調節と情報伝達 | 2014年9月19日現在 | 主に生理学を中心とした生理解剖学を習熟度が低い学生対象におこなった。少人数クラスで授業をおこない、配布物を工夫し、毎回の確認試験、演習や課題を用いて理解度の把握と促進を図った。 |
| 9. ヒトの成り立ちと機能調節 | 2014年4月1日現在 | 主に解剖学を中心とした生理解剖学を習熟度が低い学生対象におこなった。少人数クラスで授業をおこない、配布物を工夫し、毎回の確認試験、演習や課題を用いて理解度の把握と促進を図った。 |
| 10. 口腔機能学実習（薬理学）試験の実施 | 2003年4月1日2013年3月31日 | 実習試験を面接試験（口頭試問）で行うことにより、筆記試験では把握できなかった学生の理解度、ものの見方、考え方等の実習目標の達成度をより詳細に把握することが可能となり、後の講義、実習にフィードバックすることで成果をあげている。 |
| 11. 薬理学実習の実施 | 2003年4月1日2013年3月31日 | 実習終了後に討論形式の実習発表会を学生主導で行い、講義や参考書で得た知識を実験結果を関連付け、より実践的な知識の育成に成果を上げている。 |
| 2 作成した教科書、教材 | | |
| 1. 薬剤師国家試験結果に基づく個人成績管理表 | 2021年4月1日から現在 | 本学学生の国家試験結果（自己採点）を基に、当該学 |

| 教育上の能力に関する事項 | | |
|--|----------------------------|--|
| 事項 | 年月日 | 概要 |
| 2 作成した教科書、教材 | | |
| 2. 遠隔授業に対応した動画 3. 薬理学実験視聴覚教材の作成 | 2020年5月1日から現在 2008年4月1日 | 生の国家試験成績と在学時のすべての科目との成績を紐づけして解析し、開講科目成績と国家試験成績の関係をグラフ化した。グラフは、各学生が成績を入力する事により、国家試験合格に対する現在の実力および不足している領域を自覚することができる。 遠隔授業に対応した動画教材を作成した。 歯科薬理学実習の実験手技・方法（動物の扱い方、器具・機器の取り扱い、データの取り方、実験手順等）についてビデオに収めたオリジナル視聴覚教材を作成し、実習開始前に視聴させることで実習がスピーディーでわかり易くなったと好評を得た。毎年更新し充実を図っている。 |
| 4. 薬理学実験教材の作成 | 2003年4月1日 | 薬理学実習のin vivoおよびin vitro実験手技と薬物の用量 - 作用関係の概念、作用機序を解明する手法の一端を体得させる目的として「Pharmacology Student Lab」が作成されていた。これについて、2003年来学問の進歩に合わせて毎年更新し、有効に活用している。 |
| 3 実務の経験を有する者についての特記事項 | | |
| 4 その他 | | |
| 1. 3Cクラス担任 | 2023年4月1日から現在 | 担任として、3年生の学生生活を送れるようにサポートした。 |
| 2. 2Cクラス担任 | 2022年4月1日2023年3月31日 | 担任として、2年生の学生生活を送れるようにサポートした。また、留年に関わる学生指導および面談を実施した。 |
| 3. 1Cクラス担任 | 2021年4月1日2022年3月31日 | 担任として、新入生がスムーズに学生生活を送れるようにサポートした。また、6年後の国家試験を見据えた勉強方法を提示した。 |
| 4. 2Eクラス担任 | 2017年4月1日2020年3月31日 | 留年生のみで構成されたEクラスの担任を務めた。勉強・進級に関する助言をおこなうと共に保護者対応に尽力した。 |
| 職務上の実績に関する事項 | | |
| 事項 | 年月日 | 概要 |
| 1 資格、免許 | | |
| 1. 薬理学エドキュケーター | 2021年1月1日から現在 | 日本薬理学会認定資格 |
| 2. 第一種放射線取扱主任者免許 | 2014年8月4日から現在 | 免許番号 27960 |
| 3. 衛生検査技師免許 | 2010年10月から現在 | 免許番号 63419 |
| 4. 薬剤師免許 | 1998年6月から現在 | 免許番号 332899 |
| 2 特許等 | | |
| 1. 癌性疼痛を処置するための組成物およびその利用(特許第5954790号) | 2016年6月24日登録日 | 森田克也、土肥敏博、本山直世、北山友也、兼松隆、白石成二との共同研究成果である。 癌性疼痛に対する新規鎮痛法を発明した。 |
| 3 実務の経験を有する者についての特記事項 | | |
| 4 その他 | | |
| 1. IR委員 | 2021年4月1日から現在 | 薬学科のIR委員として、各科目とCBT模試、国家試験模試および国家試験自己採点結果などの解析に従事している。解析結果については、教員へのフィードバックをおこない、教育の質向上に関する提案をおこなう。 |
| 2. 人権教育推進委員 | 2021年4月1日から現在 | 武庫川女子大学の人権教育推進委員 |
| 3. 学生委員 | 2021年4月1日から現在 | 武庫川女子大学の学生委員 |
| 4. 日経ドラッグインフォメーション 取材対応 | 2020年1月10日発行 | 特集「薬学部の未来」日経ドラッグインフォメーション(日経BP)について、取材申し込みに対応 |
| 5. 放射線安全委員 | 2019年4月1日から現在 | 武庫川女子大学の放射線安全委員 |
| 6. 放射線取扱主任者 | 2019年4月1日から現在 | 武庫川女子大学の放射線取扱主任者 |
| 7. CBT・国試対策教育企画委員 | 2017年4月1日2023年3月31日 | 薬学部のCBT・国試対策教育企画委員として、さらなる国試対策教育の質向上に努めている。 |
| 8. 学生募集行事プロジェクト委員 | 2014年4月1日2021年3月31日 | 薬学部の学生募集行事プロジェクト委員として、オープンキャンパスおよびホームページなど入試広報業務 |

| 職務上の実績に関する事項 | | | | |
|---|---------|-----------|---|---|
| 事項 | | 年月日 | | 概要 |
| 4 その他 | | | | |
| | | | | に参加 |
| 研究業績等に関する事項 | | | | |
| 著書、学術論文等の名称 | 単著・共著書別 | 発行又は発表の年月 | 発行所、発表雑誌等又は学会等の名称 | 概要 |
| 1 著書 | | | | |
| 1. "International Proceeding Division, 3rd International Congress on Neuropathic Pain NeuPSIG" | 共 | 2010年5月 | Editografica・Bologna (Italy) | "Mechanisms of phase-dependent pain-relief activity of glycine transporter inhibitors after nerve injury" (森田克也, 本山直世, <u>北山友也</u> , 土肥敏博らとの共著) pp. 213-216 第3回国際神経障害性疼痛学会で報告された最新の知見から, 特に重要なものを厳選して出版された電子著書。 本人担当部分: 実験の共同、実験結果の考察、研究課程におけるディスカッション並びにデータ解析。 |
| 2. 「実験薬理学 実践行動薬理学」 | 共 | 2010年3月 | 金芳堂 | 「グリントランスポーターを標的とした難治性疼痛治療薬の創薬戦略」 (森田克也, 本山直世, <u>北山友也</u> , 土肥敏博らとの共著) pp. 233-241 本人担当部分: 実験データの提供、作図並びに動物実験部分の執筆。 |
| 3. 「Clinical Neuroscience別冊」 | 共 | 2008年10月 | 中外医学社 | 「グリントランスポーターと疾患・薬物作用」 森田克也, <u>北山友也</u> , 土肥敏博らとの共著 pp. 1102-1103 本人担当部分: 実験データの提供、作図並びにトランスポーター部分の執筆。 |
| 2 学位論文 | | | | |
| 1. NMDAシグナルによる成熟脳内神経系前駆細胞の成長制御に関する神経薬理学的研究 | 単 | 2003年3月 | | "Possible regulation by N-methyl-D-aspartate receptors of proliferative progenitor cells expressed in adult mouse hippocampal dentate gyrus." を元に作成した。 |
| 3 学術論文 | | | | |
| 1. COVID-19 and its impact on the national examination for pharmacists in Japan: An SNS text analysis 「査読付」 | 単 | 2023年6月 | PLoS ONE 18(6): e0288017, 2023 | 北山友也 単著のため全て担当 |
| 2. 肥満改善薬使用に関する社会的傾向と薬学部生の認識 「査読付」 | 共 | 2022年1月 | 医療薬学 第48巻第1号: pp. 35-46, 2022 | 北山友也、西村奏咲、栗原晶子との共同研究 本人担当部分: 研究計画の立案、データ解析並びに論文作成。 |
| 3. General anesthetic actions on GABAA receptors in vivo are reduced in phospholipase C-related catalytically inactive protein knockout mice. 「査読付」 | 共 | 2017年8月 | J. Anesth. Aug vol. 31: pp.531- 538, 2017 | Hayashiuchi M., <u>Kitayama T.</u> , Morita K., Yamawaki Y.らとの共著 本人担当部分: 学位請求論文作成の指導、研究計画立案、実験補助並びにデータ解析補助、論文作成に関するディスカッション |
| 4. Down-regulation of zinc transporter-1 in astrocytes induces neuropathic pain via the brain- | 共 | 2016年12月 | Neurochemistry International vol. 101: pp.120 -131, 2016 | <u>Kitayama T.</u> , Morita K., Motoyama N., Dohi.らとの共著 本人担当部分: 研究計画の立案、実験の実施、実験結果の考察、研究課程におけるディスカッション並びに論文作成 |

研究業績等に関する事項

| 著書、学術論文等の名称 | 単著・共著書別 | 発行又は発表の年月 | 発行所、発表雑誌等又は学会等の名称 | 概要 |
|--|---------|-----------|---|---|
| 3 学術論文 | | | | |
| derived neurotrophic pactor-K ⁺ -Cl ⁻ co-transporter-2 signaling pathway in the mouse spinal cord. 「査読付」 | | | | |
| 5.薬理学教育に対する解剖生理学領域における低習熟度学生対象教育の効果 「査読付」 | 共 | 2016年12月 | 薬学雑誌 vol. 136:pp. 1651-1656 2016 | 北山友也、籠田智美、吉川紀子、河井伸之、西村奏咲、他との共同研究 本人担当部分：研究計画の立案、データ解析並びに論文作成。 |
| 6.Pelief of cancer pain by glycine transporter inhibitors. 「査読付」 | 共 | 2014年10月 | Anesthesia and Analgesia Vol. 119: pp. 988-995, 2014 | Motoyama N., Morita K., Shiraishi S., <u>Kitayama T.</u> , Kanematsu T., Uezono Y., Dohi T.らの共著 本人担当部分：学位請求論文作成指導の補助、動物の行動実験を中心とした実験の共同並びにデータ解析補助、論文作成に関するディスカッション |
| 7.Phospholipase C-related catalyically inactive protein (PRIP) controls KIF5B-mediated insulin secretion. 「査読付」 | 共 | 2014年5月 | Biology Open vol. 3: pp. 463-474, 2014 | Asano S., Nemoto T., <u>Kitayama T.</u> , らとの共著 本人担当部分：データの提供並びに実験方法の確立、インスリン分泌細胞の培養法およびアッセイ法 |
| 8.Palliation of bone cancer pain by antagonists of platelet-activating factor receptors. 「査読付」 | 共 | 2014年5月 | Plos One Vol. 17: e91746, 2014 | Morita K., Shiraishi S., Motoyama N., <u>Kitayama T.</u> らとの共著 本人担当部分：タンパク質発現解析、動物の行動実験を中心とした実験の共同並びに論文作成に関わるディスカッション |
| 9.Pain-releasing action of platelet-activating factor (PAF) antagonisits in neuropathic pain animal models and the mechanisms of action. 「査読付」 | 共 | 2013年9月 | European Journal of pain vol. 17: pp.1156-1167, 2013 | Motoyama N., Morita K., <u>Kitayama T.</u> , Shiraishi S.らの共著 本人担当部分：学位請求論文作成指導補助、動物行動実験を中心とした実験の共同並びにデータ解析補助 |
| 10.Changes of activity and structure of jaw muscles in Parkinson' s disease model rats. 「査読付」 | 共 | 2013年5月 | Journal of Oral Rehabilitation vol. 40: pp.205-213, 2013 | Nakamura S., Kawai N., Ohnuki Y., Saeki Y.らとの共著 本人担当部分：パーキンソンモデル動物の作成法並びにモデル動物作成の確認法の教授 |
| 11.Phosphalipase C-related but catalytically inactive protein modulates pain behavior in a neuropathic pain model in mice. 「査読付」 | 共 | 2013年5月 | Molecular pain. vol. 9: 23, 2013 | <u>Kitayama T.</u> , Morita K., Sultana R., Kikushige N.らとの共著 本人担当部分：研究計画の立案、実験の実施、実験結果の考察、研究課程におけるディスカッション並びに論文作成の共同 |
| 12." Glycine | 共 | 2009年7月 | Pharmacology & | Dohi T., Morita K., <u>Kitayama T.</u> , Motoyama N.らとの共著 |

研究業績等に関する事項

| 著書、学術論文等の名称 | 単著・共著書別 | 発行又は発表の年月 | 発行所、発表雑誌等又は学会等の名称 | 概要 |
|--|---------|-----------|--|--|
| 3 学術論文 | | | | |
| transporter inhibitors as a novel drug discovery strategy for neuropathic pain.” 「査読付」 | | | Therapeutics vol. 123: pp.54-79, 2009 | 本人担当部分：各種モデル動物の作成並びに動物行動実験の共同 |
| 13.” The regulation of glycine transporter GlyT1 is mainly mediated by protein kinase Calpha in C6 glioma cells.” 「査読付」 | 共 | 2008年12月 | Neurochemistry International vol. 53: pp.248-254, 2008 | Morioka N., Abdin JM., Morita K., <u>Kitayama T.</u> らとの共著 本人担当部分：タンパク質変動の検出並びに解析 |
| 14.” Up-regulation of ciliary neurotrophic factor receptor expression by GABA (A) receptors in undifferentiated neural progenitors of fetal mouse brain.” 「査読付」 | 共 | 2008年9月 | Journal of Neuroscience research vol. 86: pp.2615-2623, 2008 | Fukui M., Nakamichi N., Yoneyama M., Yoshida K.らとの共著 本人担当部分：研究内容の立案、神経系前駆細胞の培養法の確立 |
| 15.” Glycinergic mediation of tactile allodynia induced by platelet-activating factor (PAF) through glutamate-NO-cyclic GMP signaling in spinal cord in mice.” 「査読付」 | 共 | 2008年9月 | Pain vol. 138: pp.525-536, 2008 | Morita K., <u>Kitayama T.</u> , Morioka N. and Dohi T.らとの共著 本人担当部分：動物の行動実験を中心とした実験の共同 |
| 16.” Promotion of neuronal differentiation through activation of N-methyl-D-aspartate receptors transiently expressed by undifferentiated neural progenitor cells in fetal rat neocortex.” 「査読付」 | 共 | 2008年8月 | Journal of Neuroscience Research vol. 86: pp.2392-2402, 2008 | Yoneyama M., Nakamichi N., Fukui M., <u>Kitayama T.</u> らとの共著 本人担当部分：神経系前駆細胞培養に関するデータの提供、論文作成に関するディスカッション |
| 17.” Spinal anti-allodynia action of glycine transporter inhibitors in neuropathic pain models in mice.” 「査読付」 | 共 | 2008年8月 | The Journal of Pharmacology and Experimental Therapeutics Vol.326: pp.633-645, 2008 | Morita K., Motoyama N., <u>Kitayama T.</u> , Morioka N.らとの共著 本人担当部分：モデル動物作成および同動物におけるタンパク質発現変動の解析並びに動物行動実験の共同 |

研究業績等に関する事項

| 著書、学術論文等の名称 | 単著・共著書別 | 発行又は発表の年月 | 発行所、発表雑誌等又は学会等の名称 | 概要 |
|--|---------|-----------|---|--|
| 3 学術論文 | | | | |
| 18." Group III metabotropic glutamate receptor activation suppresses self-replication of undifferentiated neocortical progenitor cells." 「査読付」 | 共 | 2008年6月 | Journal of Neurochemistry vol. 105: pp. 1996-2012, 2008 | Nakamichi N., Yoshida K., Ishioka Y., Makanga J.O.らとの共著 本人担当部分：神経系前駆細胞培養に関するデータの提供並びに未分化細胞培養法およびアッセイ法の確立、論文作成に関するディスカッション |
| 19." Cyclic ADP-ribose mediates formyl methionyl leucyl phenylalanine (fMLP)-induced intracellular Ca(2+) rise and migration of human neutrophils." 「査読付」 | 共 | 2008年5月 | Journal of Pharmacological Sciences Vol. 106: pp.492-504, 2008 | Morita K., Saida M., Morioka N., <u>Kitayama T.</u> らとの共著 本人担当部分：ヒト好中球調製並びにデータ解析、論文作成に関するディスカッション |
| 20." Down-regulation of norepinephrine transporter expression on membrane surface induced by chronic administration of desipramine and the antagonism by co-administration of local anesthetics in mice." 「査読付」 | 共 | 2008年5月 | Neurochemistry International vol. 52: pp.826-833, 2008 | Song L., <u>Kitayama T.</u> , Morita K., Morioka N.らとの共著 本人担当部分：学位請求論文作成の指導、研究計画立案、実験補助並びにデータ解析補助、論文作成に関するディスカッション |
| 21." P2X(7) receptor stimulation in primary cultures of rat spinal microglia induces downregulation of the activity for glutamates transporter." 「査読付」 | 共 | 2008年4月 | Glia Vol. 56: pp.528-538, 2008 | Morioka N., Abdin M.J., <u>Kitayama T.</u> , Morita K.らとの共著 本人担当部分：培養法の確立およびその調整 |
| 22." Assessing an eating disorder induced by 6-OHDA and the possibility of nerve regeneration therapy by transplantation of neural progenitor cells in rats." 「査読付」 | 共 | 2007年6月 | 日本神経精神薬理学雑誌 Vol. 27: pp.109-116, 2007 | <u>Kitayama T.</u> , Onitsuka Y., Song L., Morioka N.らとの共著 本人担当部分：研究計画の立案、実験の実施、実験結果の考察、研究課程におけるディスカッション並びに論文作成の共同 |
| 23." Activation of GABAA receptors facilitates astroglial | 共 | 2007年5月 | Journal of Neurochemistry Vol. 100: pp. 1667-1679, 2007 | Yoneyama M., Fukui M., Nakamichi N., <u>Kitayama T.</u> らとの共著 本人担当部分：研究内容の立案、神経系前駆細胞の培養法の確立 |

研究業績等に関する事項

| 著書、学術論文等の名称 | 単著・共著書別 | 発行又は発表の年月 | 発行所、発表雑誌等又は学会等の名称 | 概要 |
|---|---------|-----------|---|---|
| 3 学術論文 | | | | |
| differentiation induced by ciliary neurotrophic factor in neural progenitors isolated from fetal rat brain.” 「査読付」 | | | | |
| 24.” Analgesic action of nicotine on tibial nervw transection (TNT)-induced mechanical allodynia through enhancement of the glycinergic inhibitory system in spinal cord.” 「査読付」 | 共 | 2006年12月 | Life Sciences Vol. 80: pp.9-16, 2006 | Abdin M.J., Morioka N., Morita K., <u>Kitayama T.</u> , らとの共著 本人担当部分：学位請求論文作成の指導補助、動物に対する手術法の教授並びに補助、動物行動実験の指導および補助、論文作成に関するディスカッション |
| 25.” Down-regulation of norepinephrine transporter function induced by chronic administration of desipramine linking to the alteration of sensitivity of local anesthetics-induced convulsions and the counteraction by co-administration with local anesthetics.” 「査読付」 | 共 | 2006年6月 | Brain Research Vol. 1096: pp.97-103, 2006 | <u>Kitayama T.</u> , Song L., Morita K., Morioka N. らとの共著 本人担当部分：研究計画の立案、実験の実施、実験結果の考察、研究課程におけるディスカッション並びに論文作成の共同 |
| 26.” Cyclic ADP-Ribose Requires FK506-Binding Protein to Regulate Intracellular Ca(2+) Dynamics and Catecholamine Release in Acetylcholine-Stimulated Bovine Adrenal Chromaffin Cells.” 「査読付」 | 共 | 2006年5月 | Journal of Pharmacological Sciences Vol. 101: pp.45-51, 2006 | Morita K., <u>Kitayama T.</u> , Kitayama S. and Dohi T. らとの共著 本人担当部分：ウシ副腎由来初代クロマフィン細胞の調整並びにカルシウム測定の共同 |
| 27.” Regulation of neuronal differentiation by N-methyl-D-aspartate receptors expressed in | 共 | 2004年6月 | Journal of Neuroscience Research Vol. 76: pp.599-612, 2004 | <u>Kitayama T.</u> , Yoneyama Y., Tamaki K. and Yoneda Y. らとの共著 本人担当部分：研究計画の立案、実験の実施、実験結果の考察、研究課程におけるディスカッション並びに論文作成の共同 |

研究業績等に関する事項

| 著書、学術論文等の名称 | 単著・共著書別 | 発行又は発表の年月 | 発行所、発表雑誌等又は学会等の名称 | 概要 |
|---|---------|-----------|---|--|
| 3 学術論文 | | | | |
| neural progenitor cells isolated from adult mouse hippocampus.” 「査読付」 | | | | |
| 28.” Immunohistochemical detection by immersion with Carnoy solution of particular non-N-methyl-D-aspartate receptor subunits in murine hippocampus.” 「査読付」 | 共 | 2004年6月 | Neurochemistry International Vol. 44: pp.413-422, 2004 | Yoneyama M., <u>Kitayama T.</u> , Taniura H. and Yoneda Y.らとの共著 本人担当部分：修士論文作成の指導、研究の立案、実験方法の確立および教授、各実験の補助並びに論文作成に関するディスカッション |
| 29.” Immersion fixation with carnoy solution for conventional immunohistochemical detection of particular N-methyl-D-aspartate receptor subunits in murine hippocampus.” 「査読付」 | 共 | 2003年8月 | Journal of Neuroscience Research Vol. 73: pp.416-426, 2003 | Yoneyama M., <u>Kitayama T.</u> , Taniura H. and Yoneda Y.らとの共著 本人担当部分：修士論文作成の指導、研究の立案、実験方法の確立および教授、各実験の補助並びに論文作成に関するディスカッション |
| 30.” Possible regulation by N-methyl-D-aspartate receptors of proliferative progenitor cells expressed in adult mouse hippocampal dentate gyrus.” 「査読付」 | 共 | 2003年2月 | Journal of Neurochemistry Vol. 84: pp.767-780, 2003 | <u>Kitayama T.</u> , Yoneyama M. and Yoneda Y.らとの共著 本人担当部分：研究計画の立案、実験の実施、実験結果の考察、研究課程におけるディスカッション並びに論文作成の共同 |
| 31.” Effects of glutathione depletion by 2-cyclohexen-1-one on excitatory amino acids-induced enhancement of activator protein-1 DNA binding in murine hippocampus.” 「査読付」 | 共 | 2001年5月 | Journal of Neurochemistry Vol. 76: pp.1905-1915, 2001 | Ogita K., <u>Kitayama T.</u> , Okuda H. and Yoneda Y.らとの共著 本人担当部分：全ての実験の実施並びにデータ解析 |
| 32.” Differential expression and phosphorylation of particular Fos family members by kainite in nuclear and cytosolic fractions of murine | 共 | 2000年9月 | Neuroscience Vol. 100: pp.453-463, 2000 | Manabe T., <u>Kitayama T.</u> , Ogita K. and Yoneda Y. 本人担当部分：組織学的実験並びにタンパク質解析実験の標品の作成 |

研究業績等に関する事項

| 著書、学術論文等の名称 | 単著・共著書別 | 発行又は発表の年月 | 発行所、発表雑誌等又は学会等の名称 | 概要 |
|--|---------|-----------|---|---|
| 3 学術論文 | | | | |
| hippocampus.” 「査読付」 33.” Sustained potentiation of API DNA binding is not always associated with neuronal death following systemic administration of kainic acid in murine hippocampus.” 「査読付」 | 共 | 1999年12月 | Neurochemistry International Vol. 35: pp.453-462, 1999 | Kitayama T., Ogita K. and Yoneda Y.らとの共著 本人担当部分：すべての実験の実施、実験結果の考察、研究課程におけるディスカッション並びに論文作成の共同 |
| 34.” Sensitization by prolonged glutathione depletion of kainic acid to potentiate DNA binding of the nuclear transcription factor activator protein-1 in murine hippocampus.” 「査読付」 | 共 | 1999年7月 | Neuroscience Letters Vol. 269: pp.157-160, 1999 | Kitayama T., Ogita K., Nomoto M. and Yoneda Y.らとの共著 本人担当部分：すべての実験の実施、実験結果の考察、研究課程におけるディスカッション並びに論文作成 |
| 35.” Predominant expression of nuclear activator protein-1 complex with DNA binding activity following systemic administration of N-methyl-D-aspartate in dentate granule cells of murine hippocampus.” 「査読付」 | 共 | 1999年6月 | Neuroscience Vol. 93: pp.19-31, 1999 | Yoneda Y., Ogita K., Azuma Y.らとの共著 本人担当部分：組織学的解析およびRI実験を担当並びにデータ解析 |
| 36.” Possible involvement of membrane phospholipids in inhibition by ferrous ions of [3H]MK-801 binding to the native N-methyl-D-aspartate channel in rat brain.” 「査読付」 | 共 | 1999年2月 | 日本神経精神薬理学雑誌 Vol. 19: pp.33-40, 1999 | Yoneda Y., Ogita K., Shuto M., Manabe T.らとの共著 本人担当部分：バインディングアッセイに用いる膜標品の調整並びにRI実験の補助 |
| 37.” Differential inhibition by ferrous ions of [3H]MK-801 binding to native N- | 共 | 1999年2月 | Brain Research Vol. 818: pp.548-552, 1999 | Ogita K., Shuto M., Kuramoto N., Manabe T.らとの共著 本人担当部分：バインディングアッセイに用いる膜標品の調整並びにRI実験の補助 |

研究業績等に関する事項

| 著書、学術論文等の名称 | 単著・共著書別 | 発行又は発表の年月 | 発行所、発表雑誌等又は学会等の名称 | 概要 |
|--|---------|-----------|---|--|
| 3 学術論文 | | | | |
| methyl-D-aspartate channel in neonatal and adult rat brains.” 「査読付」 | | | | |
| その他 | | | | |
| 1. 学会ゲストスピーカー | | | | |
| 1. 「摂食障害から検討するパーキンソン病。」 | 共 | 2008年10月 | 第18回日本臨床精神神経薬理学会 第38回日本神経精神薬理学会 合同大会 | 東京 北山友也、鬼塚悠里、宋莉秋、森岡徳光らとの共同発表 学会賞受賞記念講演 本人担当部分：研究計画の立案、実験の実施、実験結果の考察、研究課程におけるディスカッションの共同 |
| 2. 「抗うつ薬によるノルアドレナリントランスporter機能抑制に対する局所麻酔薬の影響。」 | 共 | 2006年3月 | 第15回神経行動薬理学若手研究者の集い | 千葉 北山友也、宋莉秋、森田克也、土肥敏博らとの共同発表 本人担当部分：研究計画の立案、実験の実施、実験結果の考察、研究課程におけるディスカッションの共同 |
| 2. 学会発表 | | | | |
| 1. 遠隔授業による有機化学教育の弱点と対応 | 共 | 2021年3月 | 第141回日本薬学会年会 | 広島 西村奏咲、北山友也、中村一基による共同研究 新型コロナ感染対策のためWEB開催 |
| 2. 自己学修時間と留年との関連性に関する解析（第2報） | 共 | 2021年3月 | 第141回日本薬学会年会 | 広島 北山友也、西村奏咲、中村一基による共同研究 新型コロナ感染対策のためWEB開催 |
| 3. 自己学習時間と留年生との関連性に関する解析 | 共 | 2020年3月 | 第140回日本薬学会年会 | 京都 北山友也、西村奏咲、野坂和人による共同研究 新型コロナ感染対策のため誌上開催 |
| 4. 歯学部における国家試験の変遷から見てくる薬剤師国家試験の今後－禁忌肢問題の導入後の変化－ | 共 | 2019年9月 | 第4回日本薬学教育学会大会 | 大阪・豊中 北山友也、野坂和人による共同研究 |
| 5. 1年前期開講科目における強化教育対象学生選別法の開発と評価 | 共 | 2019年9月 | 第4回日本薬学教育学会大会 | 大阪・豊中 西村奏咲、北山友也、野坂和人による共同研究 |
| 6. 成績推移およびアンケート調査結果に基づく強化教育対象者選別法の評価 | 共 | 2018年9月 | 第3回薬学教育学会大会 | 金沢 西村奏咲、川崎郁勇、北山友也、三木知博による共同研究 |
| 7. 自己学習時間と成績との関係に関する3年間の調査研究 | 共 | 2018年9月 | 第3回日本薬学教育学会大会 | 東京・品川 北山友也、西村奏咲、三木知博による共同研究 |
| 8. 「スペクトル構造解析におけるカルタを用いた演習の実施と評価」 | 共 | 2018年3月 | 第138回日本薬学会年会 | 金沢 河井伸之、川崎郁勇、北山友也、西村奏咲、その他による共同研究 |
| 9. 「クラスサイズの違いによる成績およびアンケート結果への影響」 | 共 | 2018年3月 | 第138回日本薬学会年会 | 金沢 西村奏咲、北山友也、三木知博による共同研究 |
| 10. 「成績に対する自己学習時間調査の影響」 | 共 | 2018年3月 | 第138回日本薬学会年会 | 金沢 北山友也、西村奏咲、三木知博、その他による共同研究 |
| 11. 「自己学習時間の実態調査と成績との関係に関する調査研究」 | 共 | 2017年3月 | 第137回日本薬学会年会 | 仙台 北山友也、河井伸之、西村奏咲、その他による共同研究 |
| 12. 「スペクトル構造解 | 共 | 2017年3月 | 第137回日本薬学会 | 仙台 |

研究業績等に関する事項

| 著書、学術論文等の名称 | 単著・共著書別 | 発行又は発表の年月 | 発行所、発表雑誌等又は学会等の名称 | 概要 |
|--|---------|-----------|-------------------|---|
| 2. 学会発表 | | | | |
| 析学の習熟度別授業の実践と評価」 | | | 年会 | 河井伸之、川崎郁勇、北山友也、西村奏咲、その他による共同研究 |
| 13. 「2016年度薬学部初年次教育（有機化学）における基礎学力強化教育の運用と評価」 | 共 | 2017年3月 | 第137回日本薬学会年会 | 仙台 西村奏咲、川崎郁勇、稲本浄文、来海徹太郎、河井伸之、北山友也、その他による共同研究 |
| 14. 生化学（生体成分領域）における学力強化対象者に対する教育の運用と評価 | 共 | 2016年3月 | 第136回日本薬学会年会 | 横浜 安井菜穂美、河井伸之、北山友也、西村奏咲、その他による共同研究 |
| 15. 薬理学領域理解度に対する解剖生理学教育の影響 | 共 | 2016年3月 | 第136回日本薬学会年会 | 横浜 北山友也、籠田智美、吉川紀子、河井伸之、その他による共同研究 |
| 16. 下級学年成績に基づいた成績予測式による習熟度別クラス判定法の評価 | 共 | 2016年3月 | 第136回日本薬学会年会 | 横浜 三浦健、篠塚和正、河井伸之、北山友也、その他による共同研究 |
| 17. 2015年度薬学部初年次教育（有機化学）における基礎的学力強化教育の運用と評価 | 共 | 2016年3月 | 第136回日本薬学会年会 | 横浜 西村奏咲、来海徹太郎、河井伸之、北山友也、その他による共同研究 |
| 18. 三年次生への有機合成化学領域における習熟度別少人数講義の効果 | 共 | 2016年3月 | 第136回日本薬理学会年会 | 横浜 河井伸之、西出喜代治、北山友也、西村奏咲、その他による共同研究 |
| 19. 細胞内亜鉛濃度変化に伴う神経障害性疼痛発症機構 | 共 | 2015年11月 | 第128回日本薬理学会近畿部会 | 大阪 北山友也、森田克也、兼松隆らとの共同研究 |
| 20. 有機化学系科目における習熟度別講義の三年次生への運用とその評価 | 共 | 2015年3月 | 第135回日本薬学会年会 | 神戸 河井伸之、西出喜代治、北山友也、西村奏咲、その他による共同研究 |
| 21. 生化学（代謝領域）における学力強化教育の運用と評価 | 共 | 2015年3月 | 第135回日本薬学会年会 | 神戸 安井菜穂美、河井伸之、北山友也、西村奏咲、その他による共同研究 |
| 22. 薬理学分野における強化教育に対する予備的評価 | 共 | 2015年3月 | 第135回日本薬学会年会 | 神戸 三浦健、篠塚和正、河井伸之、北山友也、その他による共同研究 |
| 23. 薬学部初年次教育（有機化学）における習熟度別授業の効果 | 共 | 2015年3月 | 第135回日本薬理学会年会 | 神戸 西村奏咲、西出喜代治、来海徹太郎、河井伸之、北山友也、その他による共同研究 |
| 24. 解剖生理学分野における強化教育法による成績への影響 | 共 | 2015年3月 | 第135回日本薬学会年会 | 神戸 北山友也、森山賢治、籠田智美、河井伸之、その他による共同研究 |
| 25. PRIP遺伝子欠損マウスにおけるpropofol麻酔作用の変調 | 共 | 2015年3月 | 第88回日本薬理学会年会 | 名古屋 林内優樹、北山友也、山脇洋輔その他による共同研究 |
| 26. ZnT1の発現低下はBDNF-KCC2経路を介して神経障害性疼痛を誘導する | 共 | 2014年3月 | 第87回日本薬理学会年会 | 仙台 北山友也、森田克也、兼松隆らとの共同発表 |
| 27. PRIP遺伝子欠損マウスで認められる神経因性疼痛寛解作用はKCC2高発現に起因する。 | 共 | 2013年3月 | 第86回日本薬理学会年会 | 福岡 北山友也、森田克也、Rizia Sultana、兼松隆らとの共同発表 |

研究業績等に関する事項

| 著書、学術論文等の名称 | 単著・共著書別 | 発行又は発表の年月 | 発行所、発表雑誌等又は学会等の名称 | 概要 |
|---|---------|-----------|--|---|
| 2. 学会発表 | | | | |
| 28. 「PRIP1ノックアウトマウスとPRIP1, 2ダブルノックアウトマウスは疼痛反応の表現型が異なる」 | 共 | 2012年3月 | 第85回日本薬理学会年会 | 京都 北山友也、森田克也、兼松隆らとの共同発表 |
| 29. 「疼痛シグナルに対するPRIP分子の影響」 | 共 | 2011年10月 | 第53回日本歯科基礎医学会学術大会ならびに総会 | 岐阜 北山友也、森田克也、兼松隆らとの共同発表 |
| 30. 「慢性難治性疼痛の発症と維持機構における血小板活性化因子(PAF)の役割」 | 共 | 2011年10月 | 第53回日本歯科基礎医学会学術大会ならびに総会 | 岐阜 本山直世、森田克也、北山友也、西村英紀らとの共同発表 |
| 31. 「PRIP分子の疼痛反応への影響」 | 共 | 2011年7月 | 第119回日本薬理学会近畿部会 | 名古屋 北山友也、森田克也、菊重奈美、兼松隆らとの共同発表 |
| 32. 「GABARAPおよびPRIPによるインスリン分泌調節」 | 共 | 2011年3月 | 第84回日本薬理学会年会 | 横浜 北山友也、平田雅人、兼松隆らとの共同発表 |
| 33. 「神経因性疼痛発症時に見られるグリシンシグナルの変調機構」 | 共 | 2010年10月 | 第94回広島大学歯学会 | 広島 本山直世、森田克也、北山友也、西村英紀らとの共同発表 |
| 34. 「神経因性疼痛が誘発するNMDA受容体のサブユニット構築変化」 | 共 | 2010年9月 | 第52回日本歯科基礎医学会学術大会ならびに総会 | 東京 鶴田竜一、北山友也、森田克也、兼松隆らとの共同発表 |
| 35. 「神経障害性疼痛発症における抑制性グリシンシグナルの変調機構に関する研究」 | 共 | 2010年9月 | 第52回日本歯科基礎医学会学術大会ならびに総会 | 東京 本山直世、北山友也、西村英紀、兼松隆らとの共同発表 |
| 36. 「インスリン分泌顆粒の輸送を調節する新しい分子」 | 共 | 2010年9月 | 第52回日本歯科基礎医学会学術大会ならびに総会 | 東京 兼松隆、北山友也らとの共同発表 |
| 37. 「グリシントランスポーターと神経障害性疼痛」 | 共 | 2010年7月 | 第5回トランスポーター研究会年会 | 東京 本山直世、森田克也、北山友也、兼松隆らとの共同発表 |
| 38. 「神経障害性疼痛における中枢神経系NMDAシグナルの変調」 | 共 | 2010年6月 | 第43回広島大学歯学会総会 | 広島 鶴田竜一、北山友也、森田克也、兼松隆らとの共同発表 |
| 39. 「疼痛治療ターゲットとしてのグリシントランスポーター」 | 共 | 2010年6月 | 社団法人日本麻酔科学会第57回学術集会、第13回アジア・オーストラレーシア麻酔科学会 | 福岡 森田克也、本山直世、北山友也、兼松隆らとの共同発表 |
| 40. "Mechanisms of phase-dependent pain-relief activity of glycine transporter inhibitors after nerve injury" | 共 | 2010年5月 | Third International Congress on Neuropathic Pain (NeuPSIG) | Athens, Greece K. Morita, N. Motoyama, T. Kitayama, Y. Jinninらとの共同発表 |
| 41. "Glycine transporter inhibitors as a novel drug discovery strategy" | 共 | 2010年5月 | Third International Congress on Neuropathic Pain (NeuPSIG) | Athens, Greece T. Dohi, K. Morita, N. Motoyama, T. Kitayamaらとの共同発表 |

研究業績等に関する事項

| 著書、学術論文等の名称 | 単著・共著書別 | 発行又は発表の年月 | 発行所、発表雑誌等又は学会等の名称 | 概要 |
|--|---------|-----------|---|--|
| 2. 学会発表 | | | | |
| for neuropathic pain” | | | | |
| 42. 「神経障害性疼痛発症とグリシンシグナルの変調」 | 共 | 2010年3月 | 第83回日本薬理学会年会 | 大阪 森田克也、本山直世、北山友也、西村英紀らとの共同発表 |
| 43. 「慢性難治性疼痛の発症と維持におけるグリシン神経の役割。」 | 共 | 2010年3月 | 第19回神経行動薬理 若手研究者の集い | 岡山 本山直世、森田克也、北山友也、西村英紀らとの共同発表 |
| 44. 「神経因性疼痛初期疼痛におけるクロライドイオン輸送体発現制御機構に関する研究」 | 共 | 2010年3月 | 第19回神経行動薬理 若手研究者の集い | 岡山 北山友也、本山直世、森田克也、西村英紀らとの共同発表 |
| 45. 「三環系抗うつ薬の抗アロディニア作用におけるグリシン神経の関与」 | 共 | 2010年3月 | 第19回神経行動薬理 若手研究者の集い | 岡山 神人友樹、森田克也、本山直世、北山友也らとの共同発表 |
| 46. ”The improvement of 6-OHDA-induced eating disorders by transplantation of neural progenitor cells in rats” | 共 | 2009年11月 | The 6th Japan-Korea Conference on Cellular signaling for Young Scientists | Sasebo, Nagasaki, Japan Tomoya Kitayama, Katsuya Morita and Takashi Kanematsuらとの共同発表 |
| 47. ”Glycine transporter inhibitors as a potential therapeutic strategy for neuropathic pain” | 共 | 2009年11月 | The 6th Japan-Korea Conference on Cellular signaling for Young Scientists | Sasebo, Nagasaki, Japan Katsuya Morita, Naoyo Motoyama, Tomoya Kitayama, Takashi Kanematsuらとの共同発表 |
| 48. 「痛み発症における血小板活性化因子(PAF)受容体の関与」 | 共 | 2009年10月 | 第131回日本歯科保存学会秋季学術大会 | 仙台 本山直世、貴船幸基、森田克也、北山友也らとの共同発表 |
| 49. 「糖尿病性疼痛モデルにおけるグリシントランスポーター阻害薬の抗アロディニア作用」 | 共 | 2009年9月 | 第51回日本歯科基礎医学学会学術大会ならびに総会 | 新潟 本山直世、北山友也、神人友樹、西村英紀らとの共同発表 |
| 50. 「慢性・難治性疼痛管理における血小板活性化因子(PAF)受容体阻害薬の有用性について」 | 共 | 2009年9月 | 第51回日本歯科基礎医学学会学術大会ならびに総会 | 新潟 貴船幸基、本山直世、北山友也、西村英紀らとの共同発表 |
| 51. 「ストレプトゾトシン誘発痛性糖尿病モデルに対するグリシントランスポーター(GlyT)阻害薬の寛解作用。」 | 共 | 2009年6月 | 第115回日本薬理学会近畿部会 | 金沢 北山友也、本山直世、西村英紀、兼松隆らとの共同発表 |
| 52. 「血小板活性化因子受容体阻害薬による抗神経因性疼痛作用」 | 共 | 2009年3月 | 第82回日本薬理学会年会 | 横浜 北山友也、本山直世、森田克也、岡広子らとの共同発表 |
| 53. 「神経因性疼痛発症時におけるCl ⁻ 輸送体発現制御機構」 | 共 | 2008年11月 | 第114回日本薬理学会近畿部会 | 神戸 北山友也、本山直世、森田克也、岡広子らとの共同発表 |
| 54. 「神経損傷後疼痛モ | 共 | 2008年11月 | 第129回日本歯科保 | 富山 |

研究業績等に関する事項

| 著書、学術論文等の名称 | 単著・共著書別 | 発行又は発表の年月 | 発行所、発表雑誌等又は学会等の名称 | 概要 |
|---|---------|-----------|---|--|
| 2. 学会発表 | | | | |
| デルにおけるグリシン神経を介した鎮痛作用」 | | | 存学会秋季学術大 | 本山直世、森田克也、 <u>北山友也</u> 、西村英紀らとの共同発表 |
| 55. 「神経因性疼痛における発症と脳由来神経栄養因子(BDNF)の関与について」 | 共 | 2008年10月 | 第47回広島県歯科医学会、第92回広島大学歯学会例会、日本歯科技工学会中国・四国支部第3回学術大会 | 広島 本山直世、森田克也、 <u>北山友也</u> 、西村英紀らとの共同発表 |
| 56. 「神経因性疼痛で認められるグリシンシグナル賦活による疼痛抑制効果」 | 共 | 2008年10月 | 第18回日本臨床精神神経薬理学会 第38回日本神経精神薬理学会 合同大会 | 東京 <u>北山友也</u> 、森田克也、本山直世、西村英紀らとの共同発表 |
| 57. 「血小板活性化因子(PAF)の脊髄内投与によるアロディニア発症におけるNO-cGMPカスケードを介したグリシン受容体 $\alpha 3$ (Gly $\alpha 3$)の関与」 | 共 | 2008年9月 | 第50回日本歯科基礎医学学会学術大会ならびに総会 | 東京 本山直世、森田克也、 <u>北山友也</u> 、西村英紀らとの共同発表 |
| 58. 「神経因性疼痛形成段階で認められるグリシンシグナル変調に関する薬理学的研究」 | 共 | 2008年9月 | 第50回日本歯科基礎医学学会学術大会ならびに総会 | 東京 <u>北山友也</u> 、森田克也、本山直世、西村英紀らとの共同発表 |
| 59. 「血小板活性化因子(PAF)受容体阻害による神経因性疼痛寛解作用」 | 共 | 2008年6月 | 第113回日本薬理学会近畿部会 | 岡山 森田克也、本山直世、 <u>北山友也</u> 、岡広子らとの共同発表 |
| 60. 「脊髄ミクログリアにおけるATP受容体を介したグルタミン酸トランスポーター制御機構」 | 共 | 2008年6月 | 第3回トランスポーター研究会年会 | 京都 森岡徳光、 <u>北山友也</u> 、森田克也、仲田義啓らとの共同発表 |
| 61. 「神経因性疼痛に対するグリシントランスポーターの役割ー痛みの制御の可能性ー」 | 共 | 2008年6月 | 第3回トランスポーター研究会年会 | 京都 <u>北山友也</u> 、森田克也、本山直世、岡広子らとの共同発表 |
| 62. 「ストレプトゾトシン誘発痛性糖尿病ニューロパチーモデルマウスにおけるグリシントランスポーター阻害薬の鎮痛作用」 | 共 | 2008年6月 | 第128回日本歯科保存学会春季学術大会 | 新潟 本山直世、森田克也、 <u>北山友也</u> 、西村英紀らとの共同発表 |
| 63. 「神経因性疼痛形成および維持におけるグリシンシグナル関連蛋白質発現解析」 | 共 | 2008年3月 | 第81回日本薬理学会年会 | 横浜 <u>北山友也</u> 、森田克也、本山直世、岡広子らとの共同発表 |
| 64. 「グルタミン酸誘発アロディニア応答におけるグリシン受容体 $\alpha 3$ の関与」 | 共 | 2008年3月 | 第81回日本薬理学会年会 | 横浜 森田克也、本山直世、 <u>北山友也</u> 、貴船幸基らとの共同発表 |
| 65. "Spinal glycine receptor $\alpha 3$ subunit (GlyR $\alpha 3$) | 共 | 2007年11月 | 37th Annual Meeting of Society for | San Diego, U.S.A. T. Dohi, K. Morita, N. Motoyama, <u>T. Kitayama</u> らとの共同発表 |

研究業績等に関する事項

| 著書、学術論文等の名称 | 単著・共著書別 | 発行又は発表の年月 | 発行所、発表雑誌等又は学会等の名称 | 概要 |
|--|---------|-----------|--|---|
| 2. 学会発表 | | | | |
| involvement of inhibitor of glycine transporter-induced anti-allodynia effects in neuropathic pain models in mice” | | | Neuroscience | |
| 66. ”Anti-allodynia effects of glycine transporter inhibitors in neuropathic pain models in mice” | 共 | 2007年11月 | 37th Annual Meeting of Society for Neuroscience | San Diego, U.S.A. K. Morita, N. Motoyama, <u>T. Kitayama</u> , N. Moriokaらとの共同発表 |
| 67. 「脊髄ミクログリアにおけるATP受容体を介したグルタミン酸トランスポーター機能調節」 | 共 | 2007年11月 | 第35回薬物活性シンポジウム | 広島 森岡徳光、 <u>北山友也</u> 、森田克也、仲田義啓らとの共同発表 |
| 68. 「神経因性疼痛発症機構におけるCl ⁻ 輸送体の関与」 | 共 | 2007年11月 | 第112回日本薬理学会近畿部会 | 大阪 <u>北山友也</u> 、森田克也、本山直世、岡広子らとの共同発表 |
| 69. 「神経因性疼痛におけるグリシン作動性神経の役割」 | 共 | 2007年10月 | 第46回広島県歯科医学会 第91回広島大学歯学会例会 日本歯科技工学会中国・四国支部 第2回学術大会 | 広島 本山直世、森田克也、 <u>北山友也</u> 、土肥敏博らとの共同発表 |
| 70. 「ATP誘発アロディニア発症機構—グリシン作動性抑制系の関与」 | 共 | 2007年9月 | 自然科学研究機構 生理学研究所研究会 | 岡崎 森田克也、本山直世、 <u>北山友也</u> 、土肥敏博らとの共同発表 |
| 71. 「グリシントランスポーター阻害による神経因性疼痛制御」 | 共 | 2007年9月 | 第30回日本神経科学大会、第50回日本神経化学学会大会、第17回日本神経回路学会大会 | 横浜 森田克也、本山直世、 <u>北山友也</u> 、森岡徳光らとの共同発表 |
| 72. 「坐骨神経障害マウスにおけるグリシントランスポーター阻害薬の神経因性疼痛寛解作用機序」 | 共 | 2007年8月 | 第49回歯科基礎医学会学術大会ならびに総会 | 札幌 本山直世、森田克也、 <u>北山友也</u> 、土肥敏博らとの共同発表 |
| 73. 「局所麻酔薬および抗うつ薬慢性投与によるNET蛋白質細胞表面発現調節に関する研究」 | 共 | 2007年7月 | 第29回日本生物学的精神医学会、第37回日本神経精神薬理学会 | 札幌 <u>北山友也</u> 、宋莉秋、森田克也、土肥敏博らとの共同発表 |
| 74. 「グリシントランスポーター阻害薬による神経因性疼痛寛解作用におけるグリシン受容体 $\alpha 3$ (GlyR $\alpha 3$)の関与」 | 共 | 2007年7月 | 第29回日本疼痛学会 | 横浜 森田克也、本山直世、 <u>北山友也</u> 、森岡徳光らとの共同発表 |
| 75. ”Antinociceptive effects of glycine transporter inhibitors in various pain | 共 | 2007年6月 | 8th World Congress on Inflammation | Copenhagen, Denmark T. Dohi, K. Morita, N. Motoyama, <u>T. Kitayama</u> らとの共同発表 |

研究業績等に関する事項

| 著書、学術論文等の名称 | 単著・共著書別 | 発行又は発表の年月 | 発行所、発表雑誌等又は学会等の名称 | 概要 |
|---|---------|-----------|--|--|
| 2. 学会発表 | | | | |
| models in mice” 76. "Glycine receptors are target molecule for induction of tactile allodynia by platelet-activating factor-glutamate-cGMP cascade in mouse spinal cord” | 共 | 2007年6月 | 8th World Congress on Inflammation | Copenhagen, Denmark T. Dohi, K. Morita, <u>T. Kitayama</u> , N. Motoyamaらとの共同発表 |
| 77. 「グリシントランスポーター阻害薬による神経因性疼痛寛解作用とその機序」 | 共 | 2007年6月 | 第40回広島大学歯学会総会 | 広島 本山直世、森田克也、 <u>北山友也</u> 、土肥敏博らとの共同発表 |
| 78. 「血小板活性化因子(PAF)、グルタミン酸脊髄内投与によるアロディニア発症におけるNO/cGMPカスケードとグリシン受容体の関与」 | 共 | 2007年6月 | 第111回日本薬理学会近畿部会 | 名古屋 森田克也、 <u>北山友也</u> 、森岡徳光、本山直世らとの共同発表 |
| 79. 「神経因性疼痛モデルマウスにおけるグリシントランスポーター阻害薬の抗侵害作用」 | 共 | 2007年6月 | 第27回日本歯科薬物療法学会 | 東京 本山直世、森田克也、 <u>北山友也</u> 、森岡徳光らとの共同発表 |
| 80. 「炎症性疼痛モデルにおけるグリシントランスポーター阻害薬の鎮痛作用」 | 共 | 2007年6月 | 第27回日本歯科薬物療法学会 | 東京 貴船幸基、本山直世、森田克也、 <u>北山友也</u> らとの共同発表 |
| 81. "Antiallodynia effects of glycine transporter inhibitors in mice” | 共 | 2007年5月 | 3rd International conference on Phospholipase A2 and Lipid Mediators | Sorrento, Italy T. Dohi, K. Morita, N. Motoyama, <u>T. Kitayama</u> らとの共同発表 |
| 82. "Platelet-activating factor induces tactile allodynia by dishinhibition of glycinergic control through glutamate-cGMP cascade in mouse spinal cord” | 共 | 2007年5月 | 3rd International conference on Phospholipase A2 and Lipid Mediators | Sorrento, Italy T. Dohi, K. Morita, <u>T. Kitayama</u> , N. Motoyamaらとの共同発表 |
| 83. 「培養脊髄ミクログリアにおけるATP受容体を介したグルタミン酸トランスポーターの制御」 | 共 | 2007年3月 | 第80回日本薬理学会年会 | 名古屋 森岡徳光、Abdin Md. J.、 <u>北山友也</u> 、森田克也らとの共同発表 |
| 84. 「グリシントランスポーターによる神経因性疼痛の制御」 | 共 | 2007年3月 | 第80回日本薬理学会年会 | 名古屋 森田克也、本山直世、 <u>北山友也</u> 、森岡徳光らとの共同発表 |
| 85. 「神経因性疼痛モデルマウス脊髄におけるミクログリアおよびグリシニングナル蛋白質の免疫組織学 | 共 | 2007年3月 | 第80回日本薬理学会年会 | 名古屋 <u>北山友也</u> 、森田克也、本山直世、森岡徳光らとの共同発表 |

研究業績等に関する事項

| 著書、学術論文等の名称 | 単著・共著書別 | 発行又は発表の年月 | 発行所、発表雑誌等又は学会等の名称 | 概要 |
|--|---------|-----------|--|---|
| 2. 学会発表 | | | | |
| 的検討」 | | | | |
| 86. 「神経系前駆細胞移植によるパーキンソンモデル動物摂食障害改善の可能性」 | 共 | 2007年3月 | 第16回神経行動薬理若手研究者の集い | 名古屋 北山友也、鬼塚悠里、土肥敏博らとの共同発表 |
| 87. 「脊髄ミクログリアにおけるグルタミン酸トランスポーター機能制御に対するATPの関与」 | 共 | 2006年11月 | 第110回日本薬理学会近畿部会 | 京都 森岡徳光、Abdin Md. J.、北山友也、森田克也らとの共同発表 |
| 88. 「神経因性疼痛モデルマウスにおけるグリシントランスポーター阻害薬の抗侵害作用」 | 共 | 2006年11月 | 第90回広島大学歯学会例会 | 広島 本山直世、森田克也、貴船幸基、北山友也らとの共同発表 |
| 89. "Glycinergic mediation of allodynia induced by platelet-activating factor in spinal cord in mice" | 共 | 2006年10月 | 36th Annual Meeting of Society for Neuroscience | Atlanta, USA T. Dohi, K. Morita, N. Morioka, N. Motoyamaらとの共同発表 |
| 90. "Antinociceptive effect of nicotine on tibial nerve transection-induced neuropathic pain" | 共 | 2006年10月 | 36th Annual Meeting of Society for Neuroscience | Atlanta, USA N. Morioka, J. Abdin, K. Morita, T. Kitayamaらとの共同発表 |
| 91. 「グリシントランスポーター阻害薬の神経因性疼痛寛解作用」 | 共 | 2006年9月 | 第34回薬物活性シンポジウム | 群馬 森田克也、本山直世、貴船幸基、森岡徳光らとの共同発表 |
| 92. 「グリシントランスポーター阻害薬の鎮痛作用」 | 共 | 2006年9月 | 第48回歯科基礎医学会学術大会ならびに総会 | 横浜 森田克也、本山直世、貴船幸基、森岡徳光らとの共同発表 |
| 93. 「培養脊髄ミクログリアにおけるグルタミン酸トランスポーター機能に対するATP受容体P2X7の関与。」 | 共 | 2006年9月 | 第48回歯科基礎医学会学術大会ならびに総会 | 横浜 森岡徳光、アブディン、北山友也、森田克也らとの共同発表 |
| 94. 「Cyclic ADP-riboseの脊髄腔内投与による痛覚過敏とアロディニア誘発に関する研究」 | 共 | 2006年9月 | 第48回歯科基礎医学会学術大会ならびに総会 | 横浜 本山直世、森田克也、貴船幸基、森岡徳光らとの共同発表 |
| 95. "Nicotine has an antinociceptive effect on tibial nerve transaction-induced mechanical allodynia" | 共 | 2006年9月 | 第28回日本生物学的精神医学会、第36回日本神経精神薬理学会、第49回日本神経化学学会大会 合同大会 | 名古屋 アブディン、森岡徳光、森田克也、北山友也らとの共同発表 |
| 96. "Analysis of recovery from 6-OHDA-induced eating disorders by neural progenitor cell transplantation." | 共 | 2006年9月 | 第28回日本生物学的精神医学会、第36回日本神経精神薬理学会、第49回日本神経化学学会大会 合同大会 | 名古屋 北山友也、鬼塚悠里、宋莉秋、森岡徳光らとの共同発表 |

研究業績等に関する事項

| 著書、学術論文等の名称 | 単著・共著書別 | 発行又は発表の年月 | 発行所、発表雑誌等又は学会等の名称 | 概要 |
|--|---------|-----------|-------------------------------------|--|
| 2. 学会発表 | | | | |
| 97. "Intrathecal nicotine has the analgesic effect on the tibial nerve transection (TNT)-induced neuropathic pain" | 共 | 2006年7月 | 15th World Congress of Pharmacology | Beijin, China N. Morioka, Abdin Joynal, K. Morita, <u>T. Kitayama</u> らとの共同発表 |
| 98. "Cyclic ADP-ribose mediates calcium signaling for chemoattractants in human neutrophils" | 共 | 2006年7月 | 15th World Congress of Pharmacology | Beijin, China K. Morita, M. Saida, N. Morioka, <u>T. Kitayama</u> らとの共同発表 |
| 99. "Role for CD38 in cyclic ADP-ribose-mediated calcium signaling in human neutrophils" | 共 | 2006年7月 | 15th World Congress of Pharmacology | Beijin, China T. Dohi, K. Morita, M. Saida, N. Moriokaらとの共同発表 |
| 100. 「神経因性疼痛および炎症性疼痛モデルマウスにおけるグリシントランスポーター阻害薬の抗アロディニアおよび鎮痛作用」 | 共 | 2006年7月 | 第40回日本ペインクリニック学会 第28回日本疼痛学会 | 神戸 森田克也、本山直世、貴船幸基、森岡徳光らとの共同発表 |
| 101. 「脛骨神経損傷誘発疼痛モデルにおける機械的アロディニアに対するニコチンの抗侵害作用」 | 共 | 2006年7月 | 第40回日本ペインクリニック学会 第28回日本疼痛学会 | 神戸 森岡徳光、M. J. Abdin、 <u>北山友也</u> 、森田克也らとの共同発表 |
| 102. 「6-OHDA誘発性摂食障害に対する神経前駆細胞移植の影響」 | 共 | 2006年7月 | 第29回日本神経科学大会 | 京都 <u>北山友也</u> 、鬼塚悠里、森田克也、土肥敏博らとの共同発表 |
| 103. 「Cyclic ADP-ribose(cADPR)系のヒト好中球細胞内Ca ²⁺ 動態と走行性における役割」 | 共 | 2006年6月 | 第26回日本歯科薬物療法学会 | 高松 森田克也、 <u>北山友也</u> 、森岡徳光、土肥敏博らとの共同発表 |
| 104. 「神経因疼痛および炎症性疼痛モデルマウスにおけるグリシントランスポーター阻害薬の抗侵害作用」 | 共 | 2006年6月 | 第109回日本薬理学会近畿部会 | 倉敷 森田克也、本山直世、貴船幸基、森岡徳光らとの共同発表 |
| 105. 「パーキンソンモデル動物に認められる摂食行動障害に対する神経幹細胞の効果」 | 共 | 2006年6月 | 第39回広島大学歯学会 | 広島 鬼塚悠里、 <u>北山友也</u> 、土肥敏博らとの共同発表 |
| 106. 「ヒト好中球カルシウム情報伝達系におけるcyclic ADP-riboseの役割」 | 共 | 2006年3月 | 第79回日本薬理学会年会 | 横浜 森田克也、齋田穰、森岡徳光、 <u>北山友也</u> らとの共同発表 |
| 107. 「脛骨神経損傷疼痛モデルにおける機械的アロディニアに対するニコチンの鎮痛効果」 | 共 | 2006年3月 | 第79回日本薬理学会年会 | 横浜 森岡徳光、Abdin Md. Joynal、 <u>北山友也</u> 、森田克也らとの共同発表 |
| 108. 「口腔リラクセー | 共 | 2005年11月 | 第44回広島県歯科 | 広島 |

研究業績等に関する事項

| 著書、学術論文等の名称 | 単著・共著書別 | 発行又は発表の年月 | 発行所、発表雑誌等又は学会等の名称 | 概要 |
|--|---------|-----------|--|---|
| 2. 学会発表 | | | | |
| シオン実施による唾液中のクロモグラニンAおよびIgAの測定。」 | | | 医師会、第89回広島大学歯学会 | 松本厚枝、 <u>北山友也</u> 、森岡徳光、森田克也らとの共同発表 |
| 109. 「Desipramine慢性投与によるNET蛋白質細胞内局在性変動に対するLidocaineに拮抗作用」 | 共 | 2005年11月 | 第108回日本薬理学会近畿部会 | 神戸 宋莉秋、 <u>北山友也</u> 、森田克也、土肥敏博らとの共同発表 |
| 110. 「デシプラミンによるノルアドレナリントランスポーター機能抑制に対するリドカインの拮抗作用」 | 共 | 2005年10月 | 第33回薬物活性シンポジウム | 新潟 <u>北山友也</u> 、宋莉秋、森田克也、土肥敏博らとの共同発表 |
| 111. 「パーキンソンモデル動物に認められる摂食障害と細胞移植の影響。」 | 共 | 2005年9月 | 第47回歯科基礎医学会学術大会 | 仙台 <u>北山友也</u> 、森田克也、土肥敏博らとの共同発表 |
| 112. 「唾液とクロモグラニンAの分泌量に対する口腔リラクゼーションの影響」 | 共 | 2005年9月 | 第47回歯科基礎医学会学術大会 | 仙台 松本厚枝、 <u>北山友也</u> 、森岡徳光、森田克也らとの共同発表 |
| 113. 「痛覚伝導における血小板活性化因子(PAF)の役割—ATP、グルタミン酸。cGMPの関与—」 | 共 | 2005年9月 | 生理学研究所研究会 | 岡崎 土肥敏博、森田克也、森岡徳光、 <u>北山友也</u> らとの共同発表 |
| 114. 「非ステロイド性抗炎症薬によるMPP+誘発性細胞死増悪効果作用メカニズムの解析」 | 共 | 2005年9月 | 生体機能と創薬シンポジウム2005—疾患に関わる生体分子と治療薬— | 広島 森岡徳光、 <u>北山友也</u> 、森田克也、北山滋雄らとの共同発表 |
| 115. "Tactile allodynia induced by PAF and glutamate is mediated through NO/cyclic GMP/G-kinase cascade in spinal cord" | 共 | 2005年8月 | The 7th World Congress on Inflammation | Melbourne, Australia T. Dohi, K. Morita, M. J. Abdin, N. Moriokaらとの共同発表 |
| 116. "Cyclic ADP-ribose is an intracellular messenger for fMLP-induced intracellular Ca2+ rise and migration of human neutrophils" | 共 | 2005年8月 | The 7th World Congress on Inflammation | Melbourne, Australia T. Dohi, K. Morita, N. Morioka and <u>T. Kitayama</u> らとの共同発表 |
| 117. 「抗うつ薬デシプラミン慢性投与によるノルアドレナリントランスポーター蛋白発現変動に対する局所麻酔薬の影響。」 | 共 | 2005年8月 | 第9回活性アミンに関するワークショップ | 広島 <u>北山友也</u> 、宋莉秋、森田克也、北山滋雄らとの共同発表 |
| 118. 「抗うつ薬デシプラミン慢性投与によるノルアドレナリントランスポーターの機能変動に対する局所 | 共 | 2005年8月 | 第9回活性アミンに関するワークショップ | 広島 宋莉秋、 <u>北山友也</u> 、森田克也、北山滋雄らとの共同発表 |

研究業績等に関する事項

| 著書、学術論文等の名称 | 単著・共著書別 | 発行又は発表の年月 | 発行所、発表雑誌等又は学会等の名称 | 概要 |
|--|---------|-----------|------------------------------------|--|
| 2. 学会発表 | | | | |
| 119. 「副腎クロマフィン細胞におけるcyclic ADP-ribose(cADPR)の細胞内Ca ²⁺ 動員機構とカテコールアミン遊離における役割」 | 共 | 2005年8月 | 第9回活性アミンに関するワークショップ | 広島 森田克也、北山友也、北山滋雄、土肥敏博らとの共同発表 |
| 120. 「パーキンソンモデル動物に発症する摂食障害」 | 共 | 2005年7月 | 第27回日本生物学的精神医学会・第35回日本神経精神薬理学会合同年会 | 大阪 北山友也、宋莉秋、森田克也、土肥敏博らとの共同発表 |
| 121. 「デシプラミン慢性投与によるノルアドレナリントランスポーター機能抑制に及ぼす局所麻酔薬の影響。」 | 共 | 2005年7月 | 第27回日本生物学的精神医学会・第35回日本神経精神薬理学会合同年会 | 大阪 宋莉秋、北山友也、森田克也、新井茂昭らとの共同発表 |
| 122. 「パーキンソンモデル動物に発現する摂食障害ならびに行動障害。」 | 共 | 2005年6月 | 第107回日本薬理学近畿部会 | 金沢 北山友也、宋莉秋、森田克也、土肥敏博らとの共同発表 |
| 123. 「抗うつ薬慢性投与下におけるノルアドレナリントランスポーター機能に対する局所麻酔薬の影響」 | 共 | 2005年6月 | 第107回日本薬理学近畿部会 | 沢 宋莉秋、北山友也、森田克也、北山滋雄らとの共同発表 |
| 124. 「パーキンソンモデル動物に認められる摂食障害に対する神経再生療法の可能性。」 | 共 | 2005年5月 | 第20回神経組織の成長・再生・移植研究会学術大会 | 大阪 北山友也、宋莉秋、森田克也、土肥敏博らとの共同発表 |
| 125. 「摂食障害における神経再生医療の可能性。」 | 共 | 2005年3月 | 第78回日本薬理学会年会 | 横浜 北山友也、宋莉秋、森田克也、土肥敏博らとの共同発表 |
| 126. 「非ステロイド性抗炎症薬による multidrug resistance proteins活性阻害を介したMPP ⁺ 誘発性細胞死の増悪効果。」 | 共 | 2005年3月 | 第78回日本薬理学会年会 | 横浜 森岡徳光、北山友也、森田克也、北山滋雄らとの共同発表 |
| 127. 「脊髄の痛覚伝道における血小板活性化因子(PAF)の役割」 | 共 | 2005年3月 | 第78回日本薬理学会年会 | 横浜 土肥敏博、森田克也、森岡徳光、Abdin Joynalらとの共同発表 |
| 128. 「合成局所麻酔薬効果に対する各種血管収縮薬の影響」 | 共 | 2005年2月 | 第24回日本歯科薬物療法学会 | 東京 濱本正弘、森田克也、森岡徳光、北山友也らとの共同発表 |
| 129. 「局所麻酔薬痙攣感作におけるセロトニン神経の役割」 | 共 | 2005年2月 | 第24回日本歯科薬物療法学会 | 東京 濱本正弘、森田克也、森岡徳光、北山友也らとの共同発表 |
| 130. 「口腔領域における神経再生治療の可能性。」 | 共 | 2004年11月 | 第32回薬物活性シンポジウム | 大阪 北山友也、森田克也、米山雅紀、米田幸雄らとの共同発表 |
| 131. 「CD38/cyclic ADP-ribose系のヒト好中球細胞内Ca ²⁺ 動態と走化性能における役 | 共 | 2004年11月 | 第32回薬物活性シンポジウム | 大阪 森田克也、北山友也、伊藤剛志、本山直世らとの共同発表 |

研究業績等に関する事項

| 著書、学術論文等の名称 | 単著・共著書別 | 発行又は発表の年月 | 発行所、発表雑誌等又は学会等の名称 | 概要 |
|--|---------|-----------|--|---|
| 2. 学会発表 | | | | |
| 割.] 132. "Cyclic ADP-ribose mediates PAF-induced intracellular Ca ²⁺ rise in human neutrophils" | 共 | 2004年10月 | 2nd International Conference Phospholipases A2 & 8th International Congress Platelet-Activating Factor and Related Lipid Mediators | Berlin T. Dohi, K. Morita, M. Saida, Y. Akagawa, らとの共同発表 |
| 133. 「リドカイン局所麻酔効果に対する各種血管収縮薬の影響」 | 共 | 2004年10月 | 第55回中国地区歯科医学大会（併催）第43回広島県歯科医学会・第88回広島大学歯学会 | 広島 濱本正弘、森田克也、森岡徳光、北山友也らとの共同発表 |
| 134. 「口腔リラクゼーション実施時の唾液分泌量と精神的リラクセスの効果について。」 | 共 | 2004年9月 | 第46回歯科基礎医学会学術大会ならびに総会 | 広島 松本厚枝、原久美子、森岡志摩、竹本俊伸らとの共同発表 |
| 135. 「口腔リゾホスホリパーゼDによるリン脂質増殖因子リゾホスファチジン酸の産生。」 | 共 | 2004年9月 | 第46回歯科基礎医学会学術大会ならびに総会 | 広島 平良智、徳村彰、福澤健治、北山友也らとの共同発表 |
| 136. 「口腔でのリゾリン脂質メディエーター産生ーリゾホスホリパーゼDの関与ー。」 | 共 | 2004年9月 | 第46回歯科基礎医学会学術大会ならびに総会 | 広島 徳村彰、蔭山千恵子、福澤健治、北山友也らとの共同発表 |
| 137. 「口腔領域における神経再生治療に関する基礎的研究。」 | 共 | 2004年9月 | 第46回歯科基礎医学会学術大会ならびに総会若手サテライトシンポジウム | 広島 北山友也、森田克也、米山雅紀、米田幸雄らとの共同発表 |
| 138. 「抗うつ薬の慢性投与による局所麻酔薬痙攣の感作現象」 | 共 | 2004年3月 | 第77回日本薬理学会年会 | 大阪 新井茂昭、森田克也、北山友也、北山滋雄らとの共同発表 |
| 139. 「成熟マウス海馬由来神経前駆細胞の分化能に対するNMDAシグナルの影響。」 | 共 | 2003年10月 | 第33回日本神経精神薬理学会年会 | 奈良 米山雅紀、北山友也、米田幸雄らとの共同発表 |
| 140. "Immunohistochemical detection of particular NMDA receptor subunits in murine hippocampus" | 共 | 2003年9月 | 第46回日本日本神経化学学会年会 | 新潟 玉置啓祐、山田清文、米山雅紀、北山友也らとの共同発表 |
| 141. "Modulation by N-methyl-D-aspartate receptors of development of cultured neural progenitor cells isolated from adult murine hippocampus." | 共 | 2003年9月 | 第46回日本日本神経化学学会年会 | 新潟 米山雅紀、北山友也、米田幸雄らとの共同発表 |

研究業績等に関する事項

| 著書、学術論文等の名称 | 単著・共著書別 | 発行又は発表の年月 | 発行所、発表雑誌等又は学会等の名称 | 概要 |
|--|---------|-----------|--|---|
| 2. 学会発表 | | | | |
| 142. 「好中球細胞内Ca ²⁺ 濃度動態におけるcyclic ADP-riboseの役割」 | 共 | 2003年9月 | 第45回歯科基礎医学学会学術大会 | 盛岡 齋田穰、森田克也、北山友也、赤川安正らとの共同発表 |
| 143. "Expression of functional heteromeric N-methyl-D-aspartate receptor channel in cultured neural progenitor cells prepared from adult murine hippocampus" | 共 | 2003年5月 | The 4th International Symposium on Receptor Mechanisms, Signal Transduction and Drug Effects | Fukui, Japan Yoneyama M., Kitayama T. and Yoneda Y.らとの共同発表 |
| 144. 「成熟マウス海馬由来神経前駆細胞におけるNMDAシグナルによる分化制御」 | 共 | 2003年5月 | 第103回日本薬理学会近畿部会 | 福井 米山雅紀、北山友也、米田幸雄らとの共同発表 |
| 145. 「マウス海馬内NMDAレセプターサブユニットの免疫組織化学的検出」 | 共 | 2003年3月 | 第76回日本薬理学会年会 | 福岡 米山雅紀、北山友也、米田幸雄らとの共同発表 |
| 146. "Effect of NMDA on differentiation of progenitor cell in adult murine hippocampus in vitro." | 共 | 2003年3月 | 第76回日本薬理学会年会 | 福岡 北山友也、米山雅紀、米田幸雄らとの共同発表 |
| 147. 「成熟マウス海馬由来神経前駆細胞における機能的NMDA受容体発現の可能性」 | 共 | 2002年11月 | 第102回日本薬理学会近畿部会 | 岡山 北山友也、米山雅紀、米田幸雄らとの共同発表 |
| 148. 「NMDAレセプターサブユニットの免疫組織化学的検出時における固定液の影響」 | 共 | 2002年10月 | 第32回日本神経精神薬理学会年会 | 群馬 米山雅紀、北山友也、米田幸雄らとの共同発表 |
| 149. 「培養神経前駆細胞のNMDAシグナル応答性」 | 共 | 2002年10月 | 第32回日本神経精神薬理学会年会 | 群馬 北山友也、米山雅紀、米田幸雄らとの共同発表 |
| 150. "Neurospheres isolated from hippocampus of adult mice" | 共 | 2002年7月 | 第45回日本神経化学大会 | 札幌 北山友也、米山雅紀、米田幸雄らとの共同発表 |
| 151. 「成熟マウス中枢神経系増殖細胞に対するNMDA投与の影響」 | 共 | 2002年3月 | 第75回日本薬理学会年会 | 熊本 北山友也、米山雅紀、中村洋一、米田幸雄らとの共同発表 |
| 152. 「神経幹細胞培養に関する基礎的研究。」 | 共 | 2001年11月 | 第100回日本薬理学会近畿部会 | 大阪 北山友也、中村洋一、米田幸雄らとの共同発表 |
| 153. 「NMDAレセプターサブユニットの免疫組織化学的検出時における固定液の影響」 | 共 | 2001年11月 | 第100回日本薬理学会近畿部会 | 大阪 米山雅紀、北山友也、中村洋一、米田幸雄らとの共同発表 |
| 154. 「成熟マウス海馬および網膜における新規DNA合成に対するNMDAシグナルの影響」 | 共 | 2001年10月 | 第31回日本神経精神薬理学会年会 | 広島 北山友也、米山雅紀、中村洋一、米田幸雄らとの共同発表 |
| 155. 「NMDA応答性を示すBrdU陽性細胞の同 | 共 | 2001年9月 | 第24回日本神経科学・第44回日本神 | 京都 北山友也、米山雅紀、中村洋一、米田幸雄らとの共同発表 |

研究業績等に関する事項

| 著書、学術論文等の名称 | 単著・共著書別 | 発行又は発表の年月 | 発行所、発表雑誌等又は学会等の名称 | 概要 |
|---|---------|-----------|---|--|
| 2. 学会発表 | | | | |
| 定」 156. 「グルタメイトレセプターサブユニットの免疫化学的検出」 | 共 | 2001年9月 | 経化学 合同大会 第24回日本神経科学・第44回日本神経化学 合同大会 | 京都 米山雅紀、北山友也、中村洋一、米田幸雄らとの共同発表 |
| 157. "Suppression by NMDA of selective accumulation of 5-brom-2' - deoxyuridine into dentate granular layers of adult murine hippocampus" | 共 | 2001年8月 | Joint Meeting of the 18th Biennial Meeting of the International Society for Neurochemistry and the 32nd Annual Meeting of the American Society for Neurochemistry | Buenos Aires, Argentina Kitayama T., Nakakura Y. and Yoneda Y.らとの共同発表 |
| 158. 「成熟マウス海馬歯状回顆粒細胞層における新規DNA合成に対するNMDA投与の影響。」 | 共 | 2000年10月 | 第30回日本神経精神薬理学会年會 | 仙台 北山友也、米田幸雄らとの共同発表 |
| 159. 「成熟マウス脳海馬への5-bromo-2' - deoxyuridine取り込みに対するNMDAレセプター活性化の影響」 | 共 | 2000年10月 | 第43回日本神経化学学会大会 | 金沢 北山友也、米山雅紀、中村洋一、米田幸雄らとの共同発表 |
| 160. 「マウス海馬歯状回顆粒細胞層の新規DNA合成に対するNMDAの影響」 | 共 | 2000年6月 | 第97回日本薬理学会近畿部会 | 大阪 北山友也、大山紀子、荻田喜代一、小井田雅夫らとの共同発表 |
| 161. 「カニン酸投与後に発現する海馬API蛋白質の経時的変化」 | 共 | 1999年9月 | 第29回日本神経精神薬理学会年會 | 広島 北山友也、荻田喜代一、米田幸雄らとの共同発表 |
| 162. 「カニン酸投与後の持続的API結合上昇」 | 共 | 1999年7月 | 第22回日本神経科学大会 | 大阪 北山友也、荻田喜代一、小井田雅夫、米田幸雄らとの共同発表 |
| 163. 「JunおよびFosファミリー蛋白質のカニン酸応答性海馬API結合への関与」 | 共 | 1999年3月 | 第72回日本薬理学会年會 | 札幌 北山友也、荻田喜代一、米田幸雄らとの共同発表 |
| 164. 「グルタチオンの海馬内グルタメイトシグナリングへの関与。」 | 共 | 1998年10月 | 第29回日本神経精神薬理学会年會 | 東京 北山友也、野本舞、荻田喜代一、米田幸雄らとの共同発表 |
| 165. 「マウス海馬内細胞核activator protein-1への興奮性アミノ酸シグナリングの相違。」 | 共 | 1998年9月 | 第41回日本神経化学学会年會 | 東京 北山友也、荻田喜代一、米田幸雄らとの共同発表 |
| 166. 「海馬AP-1結合の興奮性アミノ酸誘発性増強におけるGSHの関与。」 | 共 | 1998年9月 | 第41回日本神経化学学会年會 | 東京 荻田喜代一、北山友也、米田幸雄らとの共同発表 |
| 167. "Preferential signaling through N-methyl-D-aspartate receptor nuclear activator | 共 | 1998年7月 | The 13th International Congress of Pharmacology | Munich, Germany Kitayama T., Nomot M., Manabe T., Ogita K. らとの共同発表 |

研究業績等に関する事項

| 著書、学術論文等の名称 | 単著・共著書別 | 発行又は発表の年月 | 発行所、発表雑誌等又は学会等の名称 | 概要 |
|--|---------|-------------|--|--|
| 2. 学会発表 | | | | |
| protein-1 in murine dentate gyrus.” | | | | |
| 168. "Differential expression by kainite of nuclear activator protein -1 in murine hippocampus.” | 共 | 1998年6月 | The 4th Meeting of the Asia Pacific Society for Neurochemistry | Seoul, Korea Kitayama T., Manabe T., Ogita K. and Yoneda Y.らとの共同発表 |
| 169. 「カイン酸誘発性海馬API DNA結合増強におけるグルタミンの関与.」 | 共 | 1998年6月 | 第93回日本薬理学近畿部会 | 名古屋 北山友也、荻田喜代一、野本舞、檜井栄一らとの共同発表 |
| 170. 「海馬内特定領域AP-1結合の興奮性アミノ酸シグナル応答性の相違.」 | 共 | 1997年11月 | 第92回日本薬理学近畿部会 | 大阪 北山友也、荻田喜代一、米田幸雄らとの共同発表 |
| 3. 総説 | | | | |
| 1. The role of astrocyte in the modulation of K+-Cl--cotransporter-2 function. 「査読付」 | 単 | 2020年12月15日 | International Journal of Molecular Sciences vol. 21.(24): 9539, 2020 | Kitayama Tの単著 概要：神経障害性疼痛におけるアストログリアによるK+-Cl--cotransporter-2機能の調節を筆者のデータおよび最新の知見を用いて解説した。 |
| 2. The role of K+-Cl--cotransporter-2 in neuropathic pain. 「査読付」 | 単 | 2018年1月 | Neurochem. Res. vol. 43: pp101-106, 2018 | Kitayama Tの単著 概要：神経障害性疼痛におけるK+-Cl--cotransporter-2輸送体の役割について、筆者のデータを中心に解説した。 |
| 3. Effectiveness of hierarchical linear modeling analysis on evaluation research. | 共 | 2017年11月25日 | Global Drugs and Therapeutics vol. 3pp1-4. 2017 | Kitayama T., Nishimura K., Miki T.の共著 本人担当部分：執筆および作図、内容に関するディスカッション 概要：統計手法のひとつである階層的解析が教育研究で有用な手法であることを基礎的研究と比較して論じた。 |
| 4. Relationship between neuropathic pain and zinc ion | 単 | 2016年11月28日 | Global Drugs and Therapeutics vol. 1pp1-2. 2016 | Kitayama Tの単著 概要：神経障害性疼痛と亜鉛イオンとの関係について、著者のデータを中心に解説した。 |
| 5. フッ化水素酸の性質、毒性および応急処置法等について | 単 | 2013年5月 | 日本歯技（日本歯科技工士会会誌） vol. 6 pp. 13-15. 2013 | Kitayama Tの単著 概要：フッ化水素酸の化学的性質、毒性および応急処置などの解説 |
| 6. GABAA受容体の構造と機能. | 共 | 2012年12月 | Clinical Neuroscience vol. 30 pp, 1346-1348. 2012 中外医学社 | 北山友也、兼松隆らとの共著 本人担当部分：執筆および作図、内容に関するディスカッション |
| 7. 「神経障害性疼痛治療薬についての薬理学的考察」 | 共 | 2011年6月 | 広島大学歯学会雑誌 第43: pp.9-19, 2011 | 鶴田竜一、赤城裕一、中峠洋隆、寺邊健人らとの共著 本人担当部分：基礎配属学生の指導の一環として総説作成を指導並びに内容の確認、校正を担当 |
| 8. 「摂食運動障害と中枢神経障害」 | 単 | 2009年11月 | 日本神経精神薬理学雑誌 Vol. 29: pp.165-169, 2009 | Kitayama Tの単著 概要：パーキンソン症候群の摂食行動に対する影響をモデル動物を用いて解析をおこなった。この研究成果を中心とした総説 |
| 9. 「痛くない！？—無痛無汗症(CIPA)の症状と発症機構—」 | 共 | 2008年6月 | 広島大学歯学会雑誌 第40: pp.1-9, | 渡邊素子、大植香菜、神山長慶、嶋田陽介らとの共著 本人担当部分：基礎配属学生の指導の一環として総説作成を指導並びに内容の確認、校正を担当 |

研究業績等に関する事項

| 著書、学術論文等の名称 | 単著・共著書別 | 発行又は発表の年月 | 発行所、発表雑誌等又は学会等の名称 | 概要 |
|--|---------|--------------|---|--|
| 3. 総説 | | | | |
| 10. 「グリシントランスポーターによる神経因性疼痛の制御」 | 共 | 2007年12月 | 2008 日本薬理学雑誌 Vol. 130: pp.458-463, 2007 | Morita K., Motoyama N., <u>Kitayama T.</u> , Morioka N.らとの共著 本人担当部分：実験データの提供並びに総説作成に関するディスカッション |
| 11. 「神経系前駆細胞の新しい臨床応用の可能性—口腔領域疾患への応用—」 | 共 | 2007年12月 | 広島大学歯学会雑誌 第39: pp.93-100, 2007 | <u>北山友也</u> , 森田克也, 宋莉秋, 本山直世らとの共著 本人担当部分：執筆並びに作図、内容に関するディスカッション |
| 12. 「脊髄の痛覚伝導における血小板活性化因子(PAF)の役割」 | 共 | 2006年1月 | 日本薬理学雑誌 Vol. 127: pp.18-24, 2006 | Dohi T., Morita K., Morioka N., Joynal Abdin,らとの共著 本人担当部分：実験データの提供並びに総説内容に関するディスカッション |
| 13. 「ヒトの歯における侵害受容の分子機構。」 | 共 | 2005年6月 | 広島大学歯学会雑誌 第37: pp.1-10, 2005 | 大原紫, 岡村絵里花, 佐久間友梨, 三次翔らとの共著 本人担当部分：基礎配属学生の指導の一環として総説作成を指導並びに内容の確認、校正を担当 |
| 14. "Consolidation of transient ionotropic glutamate signals through nuclear transcription factor in the brain." 「査読付」 | 共 | 2001年4月 | Progress in Neurobiology Vol. 63: pp.697-719, 2001 | Yoneda Y., Kuramoto N., <u>Kitayama T.</u> and Hinoi E.らとの共著 本人担当部分：テーマに関する最新の知見検索並びに作図 |
| 4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績 | | | | |
| 5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等 | | | | |
| 1. パーキンソン病と摂食障害 | 単 | 2009年3月 | 広島大学第23回東京イブニングセミナー | 東京、3月6日 |
| 6. 研究費の取得状況 | | | | |
| 1. がん細胞が産生する新規鎮痛ペプチドの同定と鎮痛機序の解明、新しい疼痛治療戦略 | 共 | 2016年4月1日3年間 | 日本学術振興会 | 基盤研究（B） 課題番号 16H05234（400,000） 分担 |
| 2. 難治性疼痛における血小板活性化因子合成酵素の役割と治療戦略・歯科領域への応用 | 共 | 2016年4月1日3年間 | 日本学術振興会 | 基盤研究（C） 課題番号 16K11550（300,000） 分担 |
| 3. 難治性疼痛の発症と維持機構におけるmiRNA/TLR系の役割、新規治療戦略の開拓 | 共 | 2015年4月1日2年間 | 日本学術振興会 | 挑戦的萌芽研究 課題番号 16H05234（200,000） 分担 |
| 4. 新規細胞内輸送調節分子を介した疼痛制御機構の解明 | 共 | 2012年4月1日3年間 | 日本学術振興会 | 基盤研究（C） 課題番号 24592798（5,460,000） 代表 |
| 5. 新規小胞輸送調節分子を介した唾液分泌機構の解明 | 単 | 2010年4月1日2年間 | 日本学術振興会 | 若手研究（B） 課題番号 22791789（4,030,000） |
| 6. 神経因性疼痛発症機構におけるグリシンシグナルの役割とRNA干渉による治療薬開発 | 単 | 2007年4月1日2年間 | 日本学術振興会 | 若手研究（B） 課題番号 19791365（3,720,000） |
| 7. 中枢神経再生医療の口腔領域疾患への応用 | 単 | 2005年4月1日2年間 | 日本学術振興会 | 若手研究（B） 課題番号 17791323（3,500,000） |
| 8. グルタメイトシグナ | 単 | 2002年4月1 | 日本学術振興会 | 特別研究員奨励費 1,500,000 |

研究業績等に関する事項

| 著書、学術論文等の名称 | 単著・共著書別 | 発行又は発表の年月 | 発行所、発表雑誌等又は学会等の名称 | 概要 |
|----------------------|---------|-----------|-------------------|----|
| 6. 研究費の取得状況 | | | | |
| ルによる神経幹細胞機能制御と再生医療応用 | | 日 | | |

学会及び社会における活動等

| 年月日 | 事項 |
|--------------------|------------------------|
| 1. 2018年11月19日から現在 | 一般社団法人予防薬理学研究所 評議員 |
| 2. 2018年 | 予防薬理学研究所の法人化に参画し、法人化した |
| 3. 2016年から現在 | 薬学教育学会入会 |
| 4. 2011年から現在 | 日本神経精神薬学会 学術評議員 |
| 5. 2007年から現在 | 日本薬理学会 学術評議員 |
| 6. 2003年から2015年 | 日本歯科基礎医学会入会 |
| 7. 1999年から現在 | 日本神経精神薬理学会入会 |
| 8. 1999年から現在 | 日本神経科学学会入会 |
| 9. 1998年から現在 | 日本神経化学学会入会 |
| 10. 1997年から現在 | 日本薬理学会入会 |